

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
知事 荒井 正吾	<p>奈良県政の流儀は、①統計重視②現場重視③市町村支援重視④リスクの先読み不可です。奈良県政を成熟させ、成果を挙げたいと思います。あわせて奈良県政発展ビジョンを提案し、これからの奈良県政のテーマ、プロセスを議論したいと思います。各市町村ごとのビジョンの議論も期待します。</p>	<p>奈良県政はいろいろな分野で成果が広がってきているように感じています。先駆的な取組みも目立つようになってきて嬉しく思っています。</p> <p>このように進んできた要因は、第一には職員各位の奮闘、努力、ふん張りにあると思います。それにプロジェクトごとの運に恵まれてきたことも確かです。このような2つのことには日頃から感謝をしています。</p> <p>奈良県政の進め方も安定してきました。エビデンスを求め、政策目標を決める、ものごとを進める説得材料にするやり方も板についてきました。</p> <p>令和2年度は奈良新「都」づくりを奈良県庁の流儀で楽しく有意義に進めることができたらと願っています。</p>
副知事 村井 浩	<p>○良くなっている奈良県をもっと良くするため、引き続き8つの主要な政策を着実に進めます。</p> <p>「健康寿命日本一の達成、誰もが健やかに暮らせる地域づくり」、「安全で安心して快適に暮らし続けられる県づくり」、「県経済の好循環を促進し、働きやすく、良く学べる地域社会づくり」、「農・畜産・水産業の振興と農村活性化、林業・木材産業振興と新たな森林環境管理体制の構築」、「県内への誘客促進、観光産業振興」、「県土マネジメント推進、住みよいまちづくり」、「南部・東部地域を訪れてもらえ、住み続けられる地域に」、「県・市町村の連携・協働『奈良モデル』の推進」</p> <p>○これらの政策を支えるための行財政マネジメント、特に職員の働き方改革や歳入・歳出両面での財政健全化等に取り組めます。</p>	<p>奈良をもっと良くする主要な8つの政策と、これを支える行財政マネジメントは、県民の皆様のご理解・ご協力と県職員の努力により、今年度も概ね順調に検討・実行が進捗したと思います。</p> <p>これらの政策は、今般、「奈良新『都』づくり戦略2020」として、よりわかり易く整理されましたので、部局間の連携に十分留意しつつ、新年度も引き続き、各施策・計画等を着実に進めていくことが大切です。</p>
副知事 村田 崇	<p>「奈良モデル」の一環として、「県域水道一体化構想」の実現に向け、県・関係市町村間の合意を目指すとともに、簡易水道の広域連携に向けた検討を進めます。</p> <p>文化・観光面においては、文化財保護部門の知事部局移管の利点を活かし、なら歴史芸術文化村の整備を進めるとともに、大英博物館での仏像展示や「出雲と大和」展などの機会を捉え、観光プロモーションによる奈良県への来訪者増加の取組を拡大します。</p> <p>医療・福祉・教育面では、関係団体と連携し、若者・高齢者・女性・障害者の別に関わらず、全ての県民一人ひとりが安心して住み続けられる取組を希求します。</p>	<p>「県域水道一体化構想」の実現に向けた、県・関係市町村間の合意(覚書締結)を目指し、従来の経営統合の方針を事業統合に変更し更に一体化の効果が高まるよう協議を進めました。また、簡易水道の広域連携に向けた調査・検討を行うとともに、アドバイザーからの助言を踏まえた検討を進めました。</p> <p>文化・観光面においては、文化財保護部門の知事部局移管の利点を活かし、大英博物館での仏像展示や東京国立博物館での「出雲と大和」展などを実施するとともに、この機会を捉え、観光プロモーションに取り組み、オリンピック・パラリンピックイヤーに向けた奈良県への来訪者の増大を図りました。</p> <p>医療・福祉・教育面では、関係団体と連携し計画やアクションプランを策定し、子供や女性をはじめ、全ての県民が安心して住み続けられる取組を進めました。</p>
総務部長 末光 大毅	<p>行政需要の増加・多様化が進む一方、県政運営資源の制約は今後も厳しい状況が見込まれており、効率的かつ適切な行政運営が一層必要となっています。このため、適正文書管理など内部統制の推進や働き方改革への対応、耐震性能の向上を含む県有施設の適切な管理など、組織運営の適正化を更に進めます。また、県勢発展に向けた取組の着実な推進と持続可能な財政運営を両立するため、事業の選択と集中を進め、財政規律の堅持を徹底します。</p>	<p>「奈良新『都』づくり戦略2020」に掲げた戦略を着実に推進するため、組織を改編するとともに、県政各分野の戦略を積極果敢に実行するための新年度予算編成を行いました。</p> <p>また、効率的かつ適切な行政運営を推進するため、職員の働き方改革を進めるとともに、事務の適正な執行を確保するための基本方針を定め内部統制の体制を整備しました。併せて、耐震整備による県民の安全・安心の確保など、県有施設の適正管理に努めました。</p>

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
知事公室長 栢井 和也	<p>マネジメントサイクルにより、県政各般の政策を実現します。</p> <p>県地方創生総合戦略を改定するとともに、引き続き国の制度の勉強会を開催するなど地方創生の施策の推進に取り組みます。</p> <p>政策形成のため、正確な統計データの整備と分析、EBPMの推進に取り組みます。</p> <p>様々な広報ツールや地域フォーラムにより、県政情報をわかりやすく、正確かつスピーディに県民の皆様にお届けするとともに、皆様からの声を政策に活かします。</p> <p>国内外の地方政府等との政策議論や交流の推進に努めます。また、今後増加が見込まれる県内在住の外国人への支援の充実に取り組みます。</p>	<p>政策課題の責任者を明確にし、繰り返し議論を行うことで、政策の充実に努めました。</p> <p>第2期地方創生総合戦略を策定しました。</p> <p>東アジア地方政府会合の開催や中国清華大学との交流等活発な交流を行いました。また、外国人の総合相談窓口を設置しました。</p> <p>振り返りに当たって、政策形成、政策推進のためには、正確な統計データの作成、統計分析能力、県民の皆様とのより良きコミュニケーションと情報のキャッチボールが極めて重要であることを改めて感じました。</p>
危機管理監 杉中 泰則	<p>平成30年7月豪雨の被害の教訓を踏まえ、市町村と連携し、住民が適切な避難行動をとれるよう支援するとともに、南海トラフ巨大地震などへの対応を見据え、自衛隊と連携して県広域防災拠点の整備を進めます。</p> <p>また、自主防災組織の育成に努め、防災リーダー養成や防災訓練支援のほか、消防団員確保対策等を行い、地域防災力の向上を図ります。</p> <p>さらに、消防力の強化や救急搬送の迅速化など、消防救急体制の充実強化を図るとともに、自転車の安全で適正な利用の促進を図るなど「安全・安心の確保のための奈良県基本計画」に基づき、警察等と協働して「日本一安全で安心して暮らせる奈良」の実現を目指します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の災害で最も大きな課題となった「避難行動・避難生活」を一番のポイントとして、奈良県地域防災計画の修正を行いました。 ・大規模広域防災拠点の整備に向けて、基本構想検討、航空測量に着手しました。 ・防災のリーダー養成や訓練支援のほか、県職員OBによる地域防災支援担当者の拡充に取り組みました。 ・緊急消防援助隊の登録隊数の増加や車両・資機材の整備のほか、消防機関と医療機関の連携による救急搬送時間の着実な短縮など、消防・救急体制の充実強化を図りました。 <p>また、令和元年10月から施行した「奈良県自転車条例」に基づき、あらゆる媒体を活用して、自転車保険への加入の広報啓発に努めました。</p>
地域振興部長 山下 保典	<p>文化財保存課の編入、エネルギー政策課と地域政策課のエネルギー・土地水資源調整課への改組を受け、6課2室体制で庁内各部署とも連携しながら、下記の施策に積極的に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ なら歴史芸術文化村の着実な整備、実施展開内容の充実強化を検討 ・ 「奈良モデル」の取組やもっとよくなる市町村応援補助金により、頑張る市町村を支援 ・ 第3次エネルギービジョンを着実に推進 ・ ムジークフェストなら、地域伝統芸能全国大会、大芸術祭・障害者大芸術祭などの芸術文化イベントを実施し、県の文化力の向上 ・ 文化財の保存と活用の一體的施策の推進、特に大英博物館における仏像展示、特別展「出雲と大和」開催により、国内外へ奈良県の存在感をアピール ・ 奈良県教育振興大綱の改定を通じて教育振興策の充実を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ なら歴史芸術文化村の令和4年3月の開村を目指し、整備を着実に進め、実施展開内容の検討を深めました。 ・ もっとよくなる奈良県市町村応援補助金により、地域の消費喚起に繋がる事業を実施する市町村を支援しました。 ・ 第3次エネルギービジョンに沿った各種取組を支援しました。 ・ 県の文化力を向上させるため、各種芸術文化イベントの充実を図りました。 ・ 大英博物館における仏像展示、特別展「出雲と大和」の開催等により、国内外へ奈良県の魅力、存在感をアピールしました。 ・ 教育振興策の充実について、教育関係の有識者との勉強会で検討を重ねました。

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
<p>南部 東部振興監 前阪 祥弘</p>	<p>奥大和地域と深い繋がりを持ち幾度も訪れる「関係人口」を増やしていくため、失敗を恐れず積極果敢に奥大和地域の魅力を発信していきます。 また、安心して住み続けられる地域づくりを進めるため、「現場主義」を基本に地域支援員をはじめ職員が積極的に地域に赴き、地域の人々と気持ちを一つにして、地域を支える人材の育成や拠点づくりに取り組みます。</p>	<p>大手雑誌社と連携した情報発信、奥大和の暮らしを伝える映像制作・配信など様々な媒体でのプロモーションや、JR西日本、近鉄と連携した旅行商品造成等により、奥大和地域の魅力発信と訪れるきっかけづくりを積極的に行いました。 また、地域の特色を活かした来訪者評価の高いイベントの定着、地域住民と交流し暮らしを体験するツアーの実施、移住定住交流センターengawaのリニューアル等により、奥大和地域と関わり、幾度も訪れる機会を創出しました。 さらに、地域を支える人材の育成や拠点づくりのため、オフィスキャンプ東吉野の分析や、宿泊業経営者向けの研修を地域支援員が現地において実施するなど、地域の方々と交流を深めました。</p>
<p>観光局長 折原 英人</p>	<p>ラグビーW杯2019日本大会に向けて高まる関心等を捉え、外国人観光客に対する宿泊キャンペーンを新たに実施し、インバウンド誘客を一層促進します。 また、上質なホテルや民泊サービスなど、宿泊施設の質と量の充実を引き続き図るとともに、Wi-Fi環境、キャッシュレス環境、観光地への移動円滑化など、受入環境の整備を加速します。 さらに、東京オリンピック・パラリンピックや、大阪・関西万博の開催を見据え、奈良の奥深い魅力を海外へ発信するとともに、首都圏を中心とした国内プロモーションにも積極的に取り組みます。</p>	<p>ラグビーW杯2019日本大会の開催も踏まえ、訪奈良外国人を対象に宿泊料金を割引くキャンペーンを実施し、インバウンド需要の創出に取り組みむとともに、宿泊施設のインバウンド対応を促進しました。 また、宿泊施設の質と量の充実にも引き続き取り組み、天川村観光案内所等のWi-Fi環境の整備支援、観光地への移動円滑化など、受入環境の整備も加速させました。 さらに、大英博物館仏像展示と連携したプロモーション、SNSを通じた知られざる奈良の魅力の海外発信、薬師寺東塔大修理完成等を核としたプロモーションなどを戦略的に展開しました。</p>
<p>福祉医療部長 西川 浩至</p>	<p>障害のある人への就労支援等を促進するとともに、市町村をはじめ様々な主体と協働・連携して取り組む「福祉の奈良モデル」により、見守り・支え合い活動を進めるなど、「奈良県地域福祉計画」を着実に実行し、誰もが安心して暮らせる奈良県づくりを目指します。 また、引き続き福祉・介護の人材確保の取組に力を注ぎます。</p>	<p>障害のある人への就労支援では、「障害者はたらく応援団なら」の官民を挙げた取組や、職場実習の充実などにより、2年ぶりに障害者雇用率全国1位となりました。 また、地域における住民主体の見守り・支え合い活動を進めるため、関係機関による「地域で困りごとを解決する仕組みづくり」など、市町村におけるモデル的取組をはじめました。 人材の確保については、安心して働ける事業所の「見える化」を推進するとともに、県内事業所に勤務する若手職員により「奈良県福祉・介護のお仕事PR隊」を結成し、若者等に対する情報発信の取組を強化しました。</p>
<p>医療・介護保険局長 石井 裕章</p>	<p>国民健康保険の県内保険料水準の統一と、第3期医療費適正化計画で設定した医療費目標の達成に向けた医療費の適正化に取り組みます。 高齢者が地域で安心して暮らせるよう、高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業支援計画を着実に実行し、介護サービスの充実と介護給付の適正化に取り組みます。また、地域包括ケアシステムの構築と充実のため、在宅医療と介護の連携や認知症にやさしい地域づくりの推進等に取り組みます。 医療費や介護に関する様々な情報の「見える化」を進めつつ、市町村や医療・介護関係者と連携・協働して取組を進めてまいります。</p>	<p>国民健康保険の県内保険料水準の統一に向けて、市町村と協議し課題に対する認識の共有を図るとともに、後発医薬品の使用促進を始めとする医療費適正化の取組を市町村、医療関係者と連携して実施しました。 特別養護老人ホーム等の整備をはじめサービスの充実を図るとともに、サービス提供と要介護認定の適正化のため、県ケアマネ専門職員の派遣や、市町村職員、ケアマネ、認定調査員向けの研修を行う等、市町村の支援を行いました。 地域包括ケアシステムの構築に向けて、退院調整ルールによって医療機関と在宅介護の連携に取り組む市町村を増やしました。</p>

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
<p>医療政策局長 西川 浩至 ↓ 鶴田 真也</p>	<p>健康寿命日本一を目指して、減塩・野菜摂取などの健康的な生活習慣の普及を進めるとともに、データに基づく早期発見・治療等の取組により、がん死亡率の低下を図ります。 地域包括ケアシステムを支える「面倒見のいい病院」の機能向上を図るなど、質の高い医療提供体制の構築を進めるとともに、引き続き医療の人材確保の取組に力を注ぎます。</p>	<p>・健康寿命日本一を目指した健康づくりでは、スーパーマーケット等と連携して弁当等の中食の減塩・野菜増量に取り組み、健康的な食生活の普及に努めました。 また、総合的ながん対策を推進してきた結果、がんの75歳未満年齢調整死亡率は大幅に改善し、全国4位まで上昇しました。 ・移転開院から1年が経つ県総合医療センターでは、高度医療、救急医療、広域的な医療連携など断らない救命救急体制の確立に向け取組を進めるとともに、「面倒見のいい病院」の先進事例を病院関係者と共有するシンポジウムを開催し、優良な取組の横展開を進めました。 また、臨床研修実施病院と連携して臨床研修医の確保に取り組み、全国で初めて臨床研修医定員充足率100%を達成しました。</p>
<p>こども・女性局長 橋本 安弘</p>	<p>子育て中の不安感・負担感の軽減を目指し、市町村とともに多様な子育て支援サービスの拡充に取り組みとともに、女性がイキイキと働き続けられるよう、「なら女性活躍推進倶楽部」の会員企業等と連携した取組を推進します。 安心して子どもを預けることができるよう、待機児童をなくすとともに、保育現場で働く人材の確保やキャリアアップの促進等、保育の質の向上に取り組みます。 また、子どもたちが大切に育まれるよう、児童虐待対策の体制や取組を強化するとともに、様々な社会生活上の困難を抱える子どもを支援する取組を推進します。</p>	<p>・子育て支援に関しては、今後5年間の推進施策を「奈良県すべての子ども健やかはぐくみプラン」として、また、すべての子どもを社会が家庭とともに責任を持って養育するため、今後10年間の具体的な施策の方向を「奈良県社会的養育推進計画」としてとりまとめました。さらに、児童虐待対策の充実強化のため、今後3年間の具体的な行動計画を策定しました。 ・女性の活躍推進については、「なら女性活躍推進倶楽部」の会員企業と連携し、女性の再就職支援相談会、大学生の就職支援に取り組みました。 ・待機児童対策協議会を立ち上げ、市町村の連携による待機児童解消方策の検討や、研修制度を充実し保育士のキャリアアップに取り組みました。</p>
<p>くらし創造部長兼景観・環境局長 梶田 斉志</p>	<p>「だれもが、いつでも、どこでもスポーツに親しめる環境づくり」を目指し、市町村や関係団体等と連携しながら、中長期的な視野でスポーツ施設の整備・運営の計画・推進を図るとともに、総合型地域スポーツクラブを核とした地域スポーツの推進、東京オリパラのキャンプ地招致などを通じた国際交流にも取り組みます。 また、市町村や地域住民等と連携・協働し、「なら四季彩の庭」づくりに取り組むとともに、「大和川のきれい化」や「奈良らしい景観づくり」に向けた実践活動の誘発・促進を図ります。</p>	<p>2030年の国体開催とその先の将来を見据えて、スポーツ拠点施設の整備について検討を行いました。また、第10回奈良マラソンや、地勢等を活かしたスポーツイベントを開催するとともに、東京オリパラのキャンプ地招致・聖火リレーの準備、ワールドマスターズゲームズの開催準備などに取り組みました。 大和川のきれい化では、支川エリアにおいて、地域団体や市町村等で構成する実践部会を運営し、普及・啓発に取り組みました。奈良らしい景観づくりでは、四季彩の庭づくりを推進するため、有識者会議を設置し、県植栽計画の推進方策について検討を進めるとともに、新規に4エリアを追加しました。その他、これらの取組に賛同していただいた地域団体等(56団体)と意見交換交流会を開催し、更なる実践活動の誘発・促進に努めました。</p>

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
<p>産業・雇用振興部長 中川 裕介</p>	<p>奈良県経済の好循環を促進するため、企業誘致の促進と雇用の創出に繋がる新たな産業用地の確保に取り組みます。県産品のブランド力向上や商品開発、意欲ある起業家を支援するとともに、県内企業の域外交易力強化のため、日本貿易振興機構(ジェトロ)奈良貿易情報センターとの連携も含めた国内外への販路拡大を促進します。</p> <p>また、県内の働き方改革を進め、若者や女性、障害者、高齢者、誰もがいきいきと活躍できる職場の環境をつくります。さらに、効果的なマッチングを通じて県内企業の人手不足解消に取り組みます。</p>	<p>積極的な企業誘致活動を展開し、新たに32件(全国8位、近畿2位)の工場立地を実現しました。</p> <p>また、新たなバイヤー発掘や商談サポートに務め、国内最大級の展示会「東京国際ギフトショー」にブースを設けるなど、首都圏での販路拡大を一層進めました。さらに、パリ・ロンドンで県産品PRイベントなどを実施しました。</p> <p>働きやすい職場づくりを推進している「奈良県社員・シャイン職場づくり推進企業」の登録が10月末現在で195件となり、優れた取組を「なら産業人材育成ジャーナル」で紹介しました。県内就業促進や人手不足解消のため、県内外の大学と連携した企業説明会の開催、求職者のマッチング、就業相談の充実等に力を入れました。</p>
<p>農林部長 杉山 孝</p>	<p>特定農業振興ゾーン設定による農地の有効活用と生産性が高く担い手にとって魅力のある農業の育成、「奈良の美味しい食」の首都圏や海外等への販路拡大、食の拠点としての中央卸売市場の再整備に取り組みます。</p> <p>森林環境の保全と経済性が両立する森林づくりを進めるため、スイス林業を参考とした「新たな森林環境管理制度」を導入し、森林の「生産・防災・生物多様性・レクリエーション」の各機能を高める取組を進めるとともに、奈良の木の魅力発信等による販路拡大に取り組みます。</p>	<p>特定農業振興ゾーン6地区について、整備実施計画の策定や協定の締結を進めました。また、販路拡大に向け、海外バイヤーの招聘等を行うとともに、「奈良県中央卸売市場再整備基本計画」の策定や「奈良県豊かな食と農の振興に関する条例」の制定を進めました。</p> <p>新たな森林環境管理制度の導入と持続可能な森林経営の実現に向け、「奈良県森林環境の維持向上により森林と人との恒久的な共生を図る条例」及び「奈良県産材の安定供給及び利用の促進に関する条例」の制定を進めました。また、奈良の木の魅力発信のため、ベトナムでの商談会をはじめ広く国内外への販路拡大に取り組みました。</p>
<p>県土マネジメント部長 山田 哲也</p>	<p>近年、日本各地において、相次ぐ豪雨、地震等で、多くの尊い人命が失われ、また、重要インフラの機能に支障を来すなど経済や生活に多大な影響が発生してきました。「災害に日本一強い奈良県」を目指すため、防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策に重点的に取り組むこととし、大規模浸水、土砂災害等による被害の防止・最小化に必要な事業や、京奈和自動車道や紀伊半島アンカールートなど県民経済・生活を支える道路の整備を進めていきます。</p>	<p>京奈和自動車道や紀伊半島アンカールートなど県民経済・生活を支える道路の整備を進め、国道168号五條新宮道路の十津川道路の全線供用をはじめ、枚方大和郡山線中町工区などの供用を行いました。</p> <p>平成緊急内水対策事業については、田原本町で工事着手するなど対策を推進するとともに、100年に1度の大雨に耐えられるよう内水対策のグレードアップを目指すことになりました。また、土砂災害特別警戒区域等の指定を終えるとともに、奈良県土砂災害対策施設整備計画を策定するなど、県民の皆様の安全・安心の確保に取り組みました。</p> <p>今後も、県民の皆様が安心して快適に暮らせる奈良を目指し、全力投球してまいります。</p>

「令和元年度 奈良県宣言」振り返り

宣言者	令和元年宣言	振り返り内容
<p>まちづくり推進局長 増田 哲司</p>	<p>奈良公園周辺の交通渋滞の緩和、アメニティ・周遊観光の向上を目的に整備を進めてきた観光拠点となる「奈良公園バスターミナル」が4月13日にオープンしました。 また、来春オープンに向けて整備中の奈良県コンベンションセンターの他、吉城園・高畑町裁判所跡地の整備、西九条佐保線・JR高架化事業の推進、平城宮跡の朱雀大路東側地区の整備等についても鋭意進めてまいります。 「奈良モデル」による市町村との連携では、鉄道駅などの拠点を中心としたまちづくりにおいて、地域の特色に応じた機能の充実・強化を図るなど重点的に進めるとともに、都市計画や建築・住まい施策についても適切かつ効果的に推進してまいります。 関係者の皆様と連携して、しっかり取り組んでまいります。</p>	<p>奈良県コンベンションセンターが今年4月1日に開業し、奈良公園の高畑町裁判所跡地では、庭園や茶室の復元、宿泊施設等の整備が完了し、今年5月24日にまちびらきの予定です。 市町村とのまちづくりに関する連携協定は、これまでに27市町村、55地区で包括協定を締結し、市町村に対し、基本構想、基本計画の策定や個別協定締結事業の推進に向け支援を行ってまいりました。 このほか、(都)西九条佐保線の整備とJR関西本線の高架化、平城宮跡のさらなる活用や、都市計画、建築・住まい施策の適切かつ効果的な推進などについても、鋭意、取り組んでまいりました。 今後も関係者の皆様としっかりと連携し、各施策、事業推進に取り組んでまいります。</p>
<p>水道局長 青山 幸嗣</p>	<p>「県域水道一体化」実現に向け、浄水場等の施設共同化案を基に、「上水道エリア一体化施設整備計画」を作成するとともに、一体化による効果算定や業務運営・施設管理面等の方向性を示す「基本方針」を作成し、「県域水道一体化に係る覚書」の早期締結に向けて、市町村との協議・調整を積極的に進めます。 また、市町村水源の県水転換を促し、県域全体で水道資産を最適化する「県域水道ファシリティマネジメント」の取組を着実に進めます。</p>	<p>県域水道一体化検討会に、ワーキンググループを設置し、県のリーダーシップにより調整を図りつつ、関係市町村が主体的に検討・協議を行う体制を構築し、合意形成に向けた議論を進め、浄水場等の統廃合を進める施設整備計画(案)や一体化による効果算定及び業務運営や施設管理などの方向性を示す基本方針(案)のとりまとめを行いました。 また、市町村水源の県水転換を促し、三郷町、河合町において全量県水転換が行われました。</p>
<p>教育長 吉田 育弘</p>	<p>奈良県の子どもたちが生涯学び続け、自立した社会人に育つことができるよう、家庭・地域、市町村及び大学等関係機関と連携を深めながら、「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組を確実に遂行します。 特に、時代の変化に対応した新しい高校づくりを推進すべく策定した県立高等学校適正化計画を着実に実行し、魅力と活力あるこれからの高等学校教育の創造に全力で取り組みます。</p>	<p>「奈良県教育振興大綱」に掲げられた教育委員会所管の取組について、市町村等と連携を深めながら実行を推進してまいりました。 特に、魅力と活力あるこれからの学校づくりを進め、高等学校教育の質向上を実現するため、県立国際高等学校の開校準備をはじめとして特色ある高校の創出や教育内容の再編成に取り組み、「県立高等学校適正化実施計画」を着実に遂行しています。</p>